

建築家・大高正人と 鎌倉別館

Architect OTAKA
Masato and
Kamakura Annex

2017年
5月27日(土)–9月3日(日)

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

The Museum of Modern Art, Kamakura Annex

主催：神奈川県立近代美術館

1984年7月28日、当館の所蔵品から
代表作を選びすぐった開館記念展
『日本の近代洋画』で始動した鎌倉別館。
常設展示室をもたない当館で、
鎌倉館の多様な企画展を
補完するかたちで、
主として所蔵作品による展覧会を
年に4回ほど開催してきました。

作家やその遺族、
コレクターの方々から寄贈される
優れたコレクションは、
しばしば企画展として成立する
質と量を有するものであり、
別館ではそうした作家やコレクターの
「個展」が多く行われました。
毎年の購入作品と多彩な寄贈・寄託作品を
まとめて紹介する新収蔵品展も、
美術館活動の一端を報告するものです。

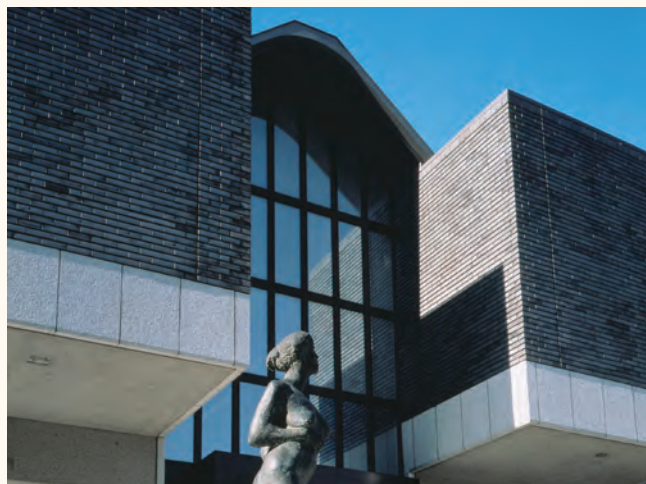
2016年3月の鎌倉館閉館に伴い、
鎌倉での美術館事業を継続・発展させるため
施設改修を行う鎌倉別館について、
設計者の大高正人の紹介と
併せて33年間の活動を辿ります。

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 — 建築について



【外壁・内壁】

師の前川國男ゆずりともいえる打込みタイルの外壁を、大高は各地の美術館・博物館において多様な素材で施工している。鎌倉別館では三河産の三州瓦による炝器質のタイルを艶消しの稲田(白御影)石と合わせ、水平のラインを強調しながら、いぶし瓦の落ち着いた銀灰色を風致地区の自然環境と調和させた。エントランス、階段室の壁と床も稲田石で統一し、建具は濃褐色と少ない色数でまとめている。



【天井と屋根】

屋外の軒下、エントランスと吹抜の階段室、連続ヴォールト(平行アーチ型)の展示室とも天井はコンクリートの小叩き仕上げ。人の手で石鑿を振るい、細かい刻みを入れる贅沢な方法で表情を与えている。展示室のヴォールトの端部は排煙口となっていて、自然彩光も可能な設計であったが遮光され使用していない。天井の形は屋根にも表れており、傾斜屋根をさまざまに展開した大高のミュージアム建築の系譜においては異色な造形。



設計	大高建築設計事務所 (担当:五十川勝、古市和正、星野拓郎)
施工	前田建設工業
階数	地上2階、地下1階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
敷地面積	4,937.94㎡
延床面積	1,599.8㎡(展示室483㎡/収蔵庫393㎡/書庫32㎡)

1951年に開館した鎌倉館の新館増設(1966年)から約10年を経て、収蔵庫と書庫、展示スペースの拡充が必須となり、鎌倉街道を挟んだ西側の民有地取得が検討されたのち、北鎌倉方面に350mほど離れた県営駐車場を敷地として別館建設が計画された。

敷地内発掘調査を行った際に12-16世紀(鎌倉-室町時代)の遺構と遺物が確認され、当初の設計を変更して遺跡のある範囲を避けるとともに、裏山に落石等防止の擁壁を二重に設置して建物を配置する必要が生じた。エントランスの上に跳ね出した2階の階段室左右のギャラリーは展示面積を確保する方策であり、地中に柱を打ち込めないために多用されたキャンティレバ

ー構造(片持ち梁)のボリューム感ある躯体が建物の特色ともなっている。1982年10月着工、翌年12月に完成後、乾燥期間を経て1984年7月28日に開館。1985年、建築業協会賞を受賞。

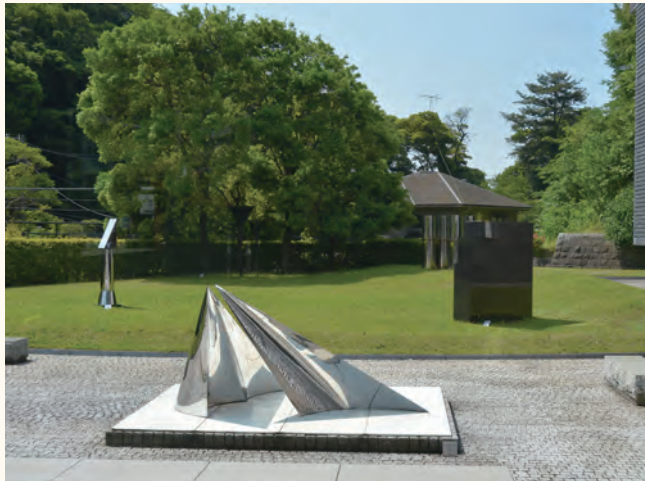
【展示室】

展示室とギャラリーの壁は桧(針桐)の天然木薄板を貼り付けた難燃合板。同素材の可動壁や台座も特注された。展示室の北・東側壁面には吊り戸式で壁を開閉・収納できるガラスケースが造りつけられている。床は灰色の置敷きカーペット。ギャラリーでは展示室と異なる小企画なども行われ、1990年代には「松本竣介記念コーナー」が設けられたこともある。



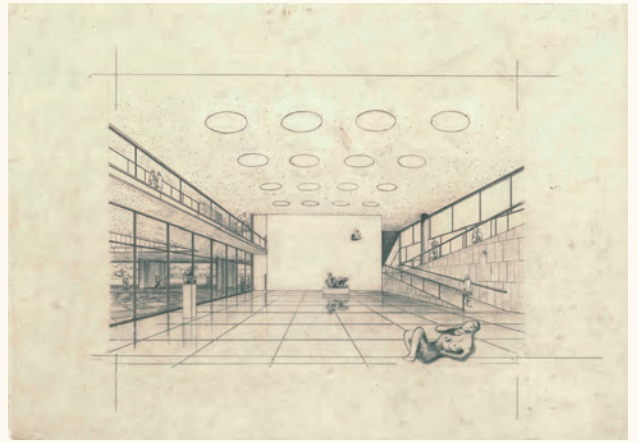
【前庭】

計画を変更して埋蔵遺跡の上に広く取られることとなった前庭。エントランス前の柳原義達《犬の唄》(1983)をはじめ本郷新、小田襄、多田美波、湯原和夫の作品5点が最初に設置され、各地の野外彫刻展での当館買上げ賞作品を中心に展示替えを交えながら彫刻庭園を形成していった。2017年3月、改修に向け一部を撤収。道路に面する生垣の白サザンカは大高の好んだ花だという。



大高正人(おおたか・まさと/1923-2010)

福島県田村郡三春町に生れる。東京帝国大学第二工学部建築学科に学び、1949年に前川國男建築設計事務所に入所。1960年、東京で開かれた世界デザイン会議にメタボリズム・グループの一員として参加。1962年に大高建築設計事務所を設立、Prefabrication, Art & Architecture, Urbanismの頭文字を取ったPAUを設計における自らの方法論の標語として集合住宅や公共建築、都市計画などに携わった。



前川國男「鎌倉近代美術館コンペ案」内観透視図 1950年 前川建築設計事務所蔵



第4回現代日本彫刻展(宇部)の審査風景(神奈川県立近代美術館賞:堀内正和(ななめの円錐をななめに通りぬける円筒)。左から2人目より弦田平八郎、大高正人、柳原義達、多田美波、土方定一。1971年 提供:ときわミュージアム)



第19回現代日本彫刻展会場 宇部市野外彫刻美術館 2001年 提供:ときわミュージアム



千葉県立美術館 南西側俯瞰

提供:千葉県立美術館



前川國男の事務所を訪れたル・コルビュジエと前川、所員たち。右端に大高正人。1955年11月4日、東京 提供:前川建築設計事務所

大高正人 美術の仕事

1. 前川國男の下で

画家志望から建築に転じて千葉の東京帝大第二工学部に学んだ大高は、外来講師であった前川國男の建築設計事務所に入所。学生時代に影響を受けたル・コルビュジエの孫弟子として高層アパートやプレファブ住宅などの都市建築に携わる一方、京橋の国立近代美術館や神奈川県立図書館・音楽堂などの文化施設を担当した。大高が担当した前川國男の鎌倉近代美術館(当館)コンペ案は、坂倉準三案以外で現存が確認されている唯一の貴重な資料。向井良吉や流政之ら彫刻家とのコラボレーションは東京文化会館で始まり、大高の独立後も継続された。

2. 土方定一とともに

戦後の文化・産業復興とともに50年頃から国内で始まった野外彫刻展。鎌倉館で開催された「今日の新人・1955年展」での向井良吉と美術批評家・土方定一(1951-65当館副館長、65-80館長在任)の出会いが、鎌倉館での「集団58野外彫刻展」(1957-8)を契機とした宇部市の野外彫刻展(1961)に結実する。彫刻家・柳原義達と土方の協力で1968年に始まった神戸須磨離宮公園現代彫刻展と併せて「宇部・須磨」と称され、日本の現代彫刻の展開に大きな役割を果たした二つの彫刻ビエンナーレで、大高は土方、向井、柳原らとともに立ち上げから運営委員と選考委員を務め、両会場の会場構成を長年担当し、建築家として街づくりにおける彫刻の役割を社会に発信した。鎌倉別館と葉山館の庭に設置された彫刻の多くは、両ビエンナーレで神奈川県立近代美術館賞を授賞した作品である。

3. ミュージアムをつくる

宇部・須磨の野外彫刻展の仕事と並行して、70年代以降の大高は美術館や博物館の設計を数多く手がけている。集合住宅や都市計画と異なり、しばしば庭園や自然に囲まれ、単体で成立するこれらの公共建築で、大高はフラットルーフ(陸屋根)主流の近代建築に対抗して斜めの屋根を取り入れ、瓦素材の打込みタイルや石、木などの天然素材と組み合わせて、社寺や民家のように日本の歴史と風土に根ざした独自の近代建築のスタイルを提唱した。大高の代表的なミュージアム建築といえる千葉県立美術館(1972-80)、群馬県立歴史博物館(1979)、福島県立美術館(1984)は、それぞれ素材の取り合わせと空間造形を違えており、鎌倉別館との相違とあわせて興味深い。

4. 都市/町をつくる

補遺として、60年代のメタボリズム運動で横文彦と提唱した「群造形」、基本計画策定を担った横浜のみなとみらい21、そして晩年に故郷の福島県三春町で実現した町づくりの仕事を紹介する。

2-2
前川國男 国立近代美術館改修
東京都中央区
1952年

2-2-1 平面図/1952.2.18/鉛筆、トレーシングペーパー/550×780/前川建築設計事務所蔵
2-2-2* 外観・内観(1956撮影)『建築写真文庫39 ギャラリー』彰国社、1957年

2-2-3 前川國男建築設計事務所(前川自邸居間)製図室の大高(右)1948-54年頃[提供:文化庁国立近現代建築資料館]

2-3
前川國男 神奈川県立図書館・音楽堂
神奈川県横浜市
1954年

2-3-1 遠景 1954年
2-3-2 図書館 閲覧室1955年(撮影:鹿野佳津子)
2-3-3 図書館 北側外観 1955年(撮影:竹山能正)

[1~3提供:神奈川県立図書館]
2-3-4 音楽堂 ホワイエ
2-3-5 音楽堂 ホール
2-3-6 音楽堂 正面夜景 [4~6提供:神奈川県立音楽堂/撮影:青柳聡]

2-3-7 神奈川県立図書館・音楽堂1:100模型/制作:武蔵野美術大学高橋晶子研究室/神奈川県立音楽堂蔵

2-3-8 神奈川県立図書館・文化資料館・音楽堂[編・発行]『神奈川県立図書館・音楽堂30年のあゆみ』1984年/当館蔵

2-3-9
前田青邨
《内山岩太郎氏像》
1965年頃
紙本着彩

2-4
前川國男 東京文化会館
東京都台東区
1961年

2-4-1 大高正人 上野計画スケッチ(1)/1959年頃/鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー/285×735

2-4-2 大高正人 上野計画スケッチ(2)/1959年頃/鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー/281×375
[1,2:文化庁国立近現代建築資料館蔵]

2-4-3 東京文化会館 外観
2-4-4 東京文化会館 大ホール 向井良吉による壁面彫刻
2-4-5 東京文化会館 小ホール 流政之による壁面構成と音響板
2-4-6 東京文化会館 ホワイエのモザイクタイル

2-4-7 上野公園 航空写真 1961年頃(撮影:渡辺義雄)
[3~7提供:東京文化会館]
2-4-8 東京文化会館 竣工時の関係者たち 1961年[提供:前川建築設計事務所]

2-4-9 前川の事務所(MIDビル)を訪れたル・コルビュジェと前川、所員たち。右端に大高。1955年11月4日[提供:前川建築設計事務所]

2-4-10 鎌倉館を訪れたル・コルビュジェと坂倉準三 1955年11月8日

2-4-11 前川國男・大高正人「先進 後進」『朝日ジャーナル』1965年7月4日号

2-4-12
向井良吉
《アフリカの木》
1955年 木

2-5
向井良吉邸
東京都世田谷区
1962年

2-5-1 計画案スケッチ/1962年頃/色鉛筆、インク、紙/237×331

2-5-2 断面図/1962年頃/鉛筆、トレーシングペーパー/555×794
[1,2:文化庁国立近現代建築資料館蔵]

2-5-3 「M氏邸」『現代日本建築家全集18 大谷幸夫・大高正人』三一書房、1970年

II-2. 土方定一とともに

2-6
宇部市野外彫刻展/現代日本彫刻展
山口県宇部市
1961年~

2-6-1 土方定一と大高正人 第8回審査風景 1979年

2-6-2 『第一回全国彫刻コンクール応募展』『現代日本彫刻展』図録(第1~20回抜粋)1963~2000年/当館蔵

2-6-3 会場風景と神奈川県立近代美術館収蔵作品
[1,3提供:ときわミュージアム/3提供:文化庁国立近現代建築資料館]

2-6-4
向井良吉
《勝利者の椅子》
1964年
アルミ合金

2-6-5
柳原義達
《長寿の鳩》
1981年
ブロンズ

2-6-6
柳原義達
《鳩》
制作年不詳
サインペン、紙

2-7
神戸須磨離宮公園現代彫刻展
兵庫県神戸市
1968-98年

2-7-1 『神戸須磨離宮公園現代彫刻展』図録(第1~15回抜粋)1968-98年/当館蔵

2-7-2 大高正人「都市と彫刻」第4回展図録 1974年

2-7-3 会場風景と神奈川県立近代美術館収蔵作品
[提供:文化庁国立近現代建築資料館/神戸市]

2-7-4
若林奮
《犬から出る水蒸気》
1968年 鉄

II-3. ミュージアムをつくる

2-8
千葉県立美術館
千葉県千葉市
1972-88年

2-8-1 立面図/1972.8.15/鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー/595×841/文化庁国立近現代建築資料館蔵

2-8-2 南西側俯瞰
2-8-3 第7展示室(改修前)
2-8-4 県民アトリエ棟ロビー [2~4提供:千葉県立美術館]

2-9
群馬県立歴史博物館
群馬県高崎市
1979年

2-9-1 ホール断面詳細図/1977.3.30/鉛筆、色鉛筆、インク、トレーシングペーパー/594×846/文化庁国立近現代建築資料館蔵

2-9-2 外観
2-9-3 学習ホール [2,3提供:群馬県立歴史博物館]

2-10
福島県立美術館
福島県福島市
1984年

2-10-1 立面図(第二原図)/1982.3.25+1984.8/インク、紙/594×837/文化庁国立近現代建築資料館蔵

2-10-2 ホール
2-10-3 外観
2-10-4 常設展示室

2-10-5 2階中庭 [2~5提供:福島県立美術館]
2-11
神奈川県立近代美術館 鎌倉別館
神奈川県鎌倉市
1984年

2-11-1 東側立面図/鉛筆、水彩、トレーシングペーパー/421×2059

2-11-2 南側立面図/鉛筆、色鉛筆、トレーシングペーパー/421×1374

[1,2:文化庁国立近現代建築資料館蔵]

2-11-3 建設前の敷地航空写真

2-11-4 竣工時の航空写真
2-11-5 初期計画模型写真
2-11-6* 配置図(遺跡境界線入)

2-11-7
柳原義達
《裸婦デッサン(3)》
制作年不詳
ペン、紙

II-4. 都市/町をつくる

2-12
新宿副都心計画(群造形)
東京都新宿区
1960年頃

2-12-1* 大高正人・横文彦 立面図・断面図/1960年頃

2-12-2* 大高正人・横文彦 配置図/1960年頃

2-12-3* 大高・横によるスケッチ/1960年頃

2-12-4* 大高によるスケッチ/1960年頃

2-12-5 メタボリズム・グループの仲間たちと/1960年頃
[1~5提供:文化庁国立近現代建築資料館]

2-13
横浜市都心臨海部開発基本構想/みなとみらい21
神奈川県横浜市
1975-2002年

2-13-1* 計画図/1979年頃 [提供:文化庁国立近現代建築資料館]

2-13-2 埋立ての変遷(国土地理院航空写真 1977年11月12日・1988年11月2日)

2-13-3 航空写真 2017年 [提供:横浜市都市整備局]

2-14
三春のまちづくり
福島県田村郡
1980-2003年

2-14-1* 福島美術協会公募展 入選作《室内》[福島民報新聞]

昭和15(1940)年11月7日夕刊(大高旧蔵ノート貼り込み)

2-14-2 「大高正人の三春の仕事」

撮影:矢口信男/音声:小倉正巳/
編集:目見田健/演出:尾賀達郎
/2016年収録/映像(8分54秒)
[1,2提供:文化庁国立近現代建築資料館]

III. 神奈川県立近代美術館と鎌倉

3-1 南側外観 1951年

3-2 南側外観 1990年代

3-3 航空写真 2003年(撮影:安齋重男)

3-4 『鎌倉館 建築について』
制作:Todoroki_Lab./2015年/
映像(6分48秒)

3-5 鎌倉館 展示・建物風景 2015-16年(撮影:新良太)

3-6 神奈川県立近代美術館 鎌倉(旧館・新館/1966年)1:100模型/当館蔵

謝辞
本展の開催に多大なご協力を賜りました皆様にご心より感謝申し上げます。(敬称略、順不同)

宇部市ときわミュージアム(UBEビエンナーレ事務局)
群馬県立歴史博物館
千葉県立美術館
東京文化会館
福島県立美術館
文化庁国立近現代建築資料館
前川建築設計事務所
横浜市都市整備局
神奈川県立音楽堂
神奈川県立図書館

大高真紀子
松隈洋
岩城紀子
江川徹
木村聡
佐々木俊寿
白石智彦
橋本功
藤本貴子
堀宜雄
三浦梨絵
築瀬大輔
渡辺修一

建築家・大高正人と鎌倉別館
編集・発行:神奈川県立近代美術館
デザイン:矢萩喜從郎
印刷:株式会社 野毛印刷社
©2017 神奈川県立近代美術館

鎌倉別館 展覧会一覧 1984-2017

1984	日本の近代洋画―別館開館記念/所蔵作品展― 山口蓬春下図・模写・素描展	7.28-9.2 9.15-85/1.20	1996	望月雷防氏寄贈作品による シャガール版画展 カロ・ゴヤ・ドミエ展;併陳 平成7年度新収蔵作品 荘司福展 ミュージアム・コレクション展 絵を読むところ 物語と幻想	1.6-3.24 4.6-6.16 6.22-8.25 9.7-12.23	2007	線の悦び・デッサンの魅惑 版画家7人のメゾチント 生誕100年 斎藤清・墨画展 木版の作家とともに 所蔵品に見る 戦後の日本画	1.6-3.25 4.7-6.17 6.30-9.17 9.29-12.16
1985	新収蔵作品展―1981~1984― 望月雷防コレクション展 斎藤清墨画展 シャガール版画展―望月雷防コレクションによる―	1.26-3.28 4.13-6.16 6.22-8.25 9.7-12.15	1997	養半農軒茶道コレクション展;併陳 山口蓬春:下図・素描 麻生三郎のデッサン 所蔵品による 神奈川の女性画家たち展 コレクション:日本近代洋画―時代を見るまなざし―	1.4-3.23 4.5-7.6 7.19-10.5 10.10-98/2.1	2008	木版に抒情を刻む 高橋力雄展 コレクション全館展示 百花繚乱の絵画 第3部 ドランの『パンタグリユエル』と新収蔵品展 小宇宙(ミクコスモス)への情熱 美浦康重版画コレクション展	1.4-3.16 3.29-5.18 5.31-8.31 9.13-12.14
1986	松本竣介と『雑記帳』の画家たち展 新収蔵作品展 マティス『ジャズ』 原精一・戦中デッサン展 ギュンター・グラス版画展	1.5-3.23 4.12-6.29 7.5-9.7 9.20-12.21	1998	生誕100年 小山敬三展 没後50年 松本竣介デッサン展 モボ・モガ展 1910-1935[第2会場] ウィリアム・ブレイク版画展;併陳 新収蔵作品 上野誠展 鎮魂の木版画家	2.7-3.22 4.4-5.10 5.17-6.28 7.11-10.11 10.25-99/1.24	2009	慈しみのまなざし 関合正明展 新収蔵作品展 珠玉のコレクション 美術館はぼくらの宝箱―子どもたちの視点がくれ るもの 北川原コレクション展	1.4-3.22 4.4-5.24 6.6-9.6 9.19-12.20
1987	近代日本画・素描と下絵展 ルオー版画展;併陳 新収蔵作品展 日本の近代彫刻展;併陳 彫刻家の版画展 大川コレクションによる 知られざる藤島武二展	1.6-3.29 4.11-6.28 7.11-9.27 10.2-12.20	1999	版画の現代I 秀島由己男展 アルベルト・ジャコメッティと矢内原伊作 コレクションの文化2:画家とモデル 柳原義達展―デッサンの魅力―	2.6-3.22 4.3-6.27 7.10-10.11 10.21-00/1.23	2010	所蔵品による イギリスの版画 新収蔵品展 20世紀西洋版画の展開 キュビズムからシュルレアリスムそして抽象へ 保田春彦展《白い風景》シリーズとクロッキー	1.5-3.28 4.10-5.23 6.5-9.5 9.18-12.26
1988	所蔵作品による 近代日本の美術展 現代版画の鬼才 一原有徳の世界;併陳 新収蔵作品展 現代日本の版画・1950-1980 ワイマールの画家たち展	1.5-3.27 4.9-6.26 7.9-10.30 11.12-12.25	2000	版画の現代II 馬場橋男・難波田史男展 現代鎌倉彫コンペティション'00 入選作品展[主催:現代鎌倉彫コンペティション'00開催委員会] 浜田知明―彫刻による諷刺 所蔵日本画展―伝統と革新 美術の「戦後」―松本竣介・麻生三郎展	2.5-3.19 3.22-3.26 4.8-7.9 7.22-11.5 11.18-01/1.21	2011	山下菊二 コラージュ展 新収蔵作品展 甦った名品を中心に 二見彰一版画展 開館60周年 日本画 ザ・ベスト・コレクション	1.8-3.27 4.9-6.5 6.18-10.10 10.22-12/3.25
1989	堀進二・加藤颯清展 小野忠重と「新版画」の作家たち展;併陳 新収蔵作品展 収蔵作品による―高橋由一から現代まで 神奈川ゆかりの画家たち フランス17世紀の銅版画家 ジャック・カロ版画展	1.5-3.26 4.8-6.25 7.8-9.24 10.7-12.24	2001	所蔵作品による 夢と幻想の世界 開館50周年記念 ウィリアム・ブレイク版画展;併陳 新収蔵作品展 開館50周年記念 ゴヤ版画展 神奈川文化賞50年の美術家たち 近代日本版画史・再読(近代日本美術史・再読[第3部])	2.3-3.25 4.7-5.20 6.2-9.2 9.11-11.25 11.29-02/1.27	2012	村山垂土作「夜の絵」とともに 柚木沙弥郎展 古都鎌倉と近代美術;併陳・新収蔵作品展 夭折の画家 小野元衛 1919-1947展	4.7-6.10 6.23-9.9 9.22-12.24
1990	人間国宝・つむぎ織 宗廣力三の世界展 秘蔵の文人画 脇村禮次郎コレクション展;併陳 新収蔵作品 現代作家の版画展 現代ガラス工芸の先駆者 各務鏞三の世界展	1.5-3.25 4.4-6.10 6.23-9.16 9.29-12.24	2002	湘南の5人の画家 萬鉄五郎・岸田劉生・朝井閑右衛門・鳥海青児・原精一 [葉山館への作品引越のため一時休館]	2.9-3.31 4.1-03/11.14	2013	戦後の出発 1945年以後 混沌と希望の時代;現代への扉 実験工房展 戦後芸術を切り拓く[第2会場] 日本画の伝統と革新;併陳 新収蔵作品展 野中ユリ展 美しい本とともに 西洋版画の流れ―ブリューゲルからピカソまで;特別展示 ジゼル・ツェラン=レトランジュ ロダンからはじまる 彫刻の近代;特集展示 スビネック・セカール	1.12-3.24 4.6-5.26 6.8-9.1 9.14-12.1 12.14-14/3.23
1991	戦後洋画の巨星 朝井閑右衛門の水墨画展 所蔵作品による 近代の日本画展;併陳 新収蔵作品展 所蔵作品による 近代日本の洋画展 開館40周年記念 40年の歩み展	1.5-3.17 4.6-7.21 8.10-10.20 11.3-92/3.22	2003	現代の日本版画展	11.15-04/2.8	2014	新収蔵作品展;併陳 小泉淳作デッサン展 ベン・シャーンとジョルジュ・ルオー 美術と文学の交流 麻生三郎の装幀・挿画展	4.5-6.22 7.5-9.15 9.27-15/1.12
1992	10人の銅版画家展;併陳 新収蔵作品 中国木版画展 マネ・ルドン・クリンガー展 幻想版画の詩と神秘	4.4-6.21 7.4-9.27 10.10-12.20	2004	片岡球子と現代日本画展 鎌倉に浮世絵がやってきた 華・浮世絵名品展[平木浮世絵財団・平木浮世絵美術館主催] 廣重 江戸を描く[平木浮世絵財団・平木浮世絵美術館主催] シルヴィア・ミニオニオ=バルウエルロ・保田―遺作展「空の明るさ」 土方定一の仕事―美術館とともに	2.21-3.28 4.6-6.27 7.1-7.25 8.14-10.3 10.30-12.19	2015	幻想の系譜 ゴヤからクリンガーまで 鎌倉からはじまった。1951-2016:日本画の部;併陳 平成26年度新収蔵作品 鎌倉からはじまった。1951-2016:版画の部 鎌倉からはじまった。1951-2016:工芸と現代美術 16/1.31	1.24-3.22 4.11-6.21 7.4-10.4 10.17-16/1.31
1993	湘南の三傑 萬鉄五郎・鳥海青児・原精一 ミュージアム・コレクション展 一絵のなかの人間像;併陳 新収蔵作品 神奈川県立博物館所蔵品による 五姓田義松展 佐野繁次郎遺作展 深沢幸雄展	1.9-3.21 4.11-7.11 7.24-8.29 9.12-12.5 12.18-94/2.6	2005	所蔵作品による 水彩・素描展 ドミエと19世紀ヨーロッパ版画展 木下翔返コレクション展;併陳 新収蔵作品 彫刻家のペーパー・ワークと彫刻	1.4-3.21 4.9-5.29 6.11-9.4 9.17-12.18	2016	片岡球子展 面構シリーズを中心として 松本竣介 創造の原点	7.30-9.25 10.8-12.25
1994	ミュージアム・コレクション展―近代日本美術の名作I ミュージアム・コレクション展―近代日本美術の名作II ミュージアム・コレクション展―近代日本美術の名作III	2.19-3.27/4.10-7.3 7.9-10.2 10.9-12.25	2006	フランシスコ・ゴヤ版画展「気まぐれ」「戦争の惨禍」 眞下美佐男版画コレクションと新収蔵作品展 コレクションに見る 彫刻の変容―近代から現代へ ヨーロッパ版画との出会い	1.4-3.26 4.8-5.28 6.10-10.15 10.28-12.24	2017	建築家・大高正人と鎌倉別館	5.27-9.3
1995	斎藤寿一遺作展 守屋多々志―イタリア巡礼展 所蔵作品による 水彩・デッサンの魅力 ホガース版画展	1.7-3.21 4.4-6.18 7.1-9.24 10.7-12.24						